

リーダーになる!

実践する上司学。

嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 著 リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第30回 危機意識を持ち先手を打つ

上司として管轄する仕事や責任の幅が広がると、危機管理はより重要。常に最悪の事態を考え、イエローラインを設定し、スムーズに対処しましょう。

仕事ができる人なら、ある程度は危機管理をしているものです。来月の戦略を立てる場合でも、「このような可能性もあるから、少しコストを多めにしておいた方がいいな」とか、「このくらいの期間を見越しておいた方が安全だな」などと考えるでしょう。

右往左往しないために 冷静な対応が鍵

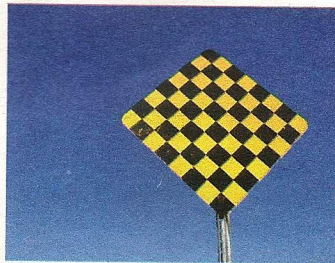
「ヤバイ、どうしよう」と右往左往するというシチュエーションです。状況のみならず、部下の仕事の進み具合にも大きく影響されます。実際に、「ヤバイ、どうしよう」という状況になれば、緊急の対策会議を開くことになるでしょうが、ただでさえ目標に届きそうもないのに、会議に時間を割いては、さらに目標が遠のいてしまうでしょう。

しかし、実際にその月になつてみると、月半ばくらいで、目標にまったく届きそうもないことが分かることなどもあります。まさに、

上司になれば、そんな問題が降りかかってくる可能性も増えるはず。部下時代なら、自分の仕事さえうまくいっていれば、月の途中で慌てることもなかったかもしれません。しかし、上司ならば、自分の仕事進歩

前もって対策を話す イエローライン戦略

そこで、わたしは「イエローライン戦略」という方法をおすすめています。イエローラインとは言い換えれば、黄色信号というわけ



です。

来月の目標を立てるときに、「来月の〇日の時点で、△%まで達成できていなければ、黄色信号」というラインをあらかじめ決めておくのです。そして、イエローラインに引つ掛かるときには、どのような対策をとるといふことも、具体的に

に前もって話し合っておくのです。

すると、月の途中で「ヤバイ、目標に達成できないぞ」というとき、すでに考えてある対策を即座にとることができ、現場の混乱を防ぐことができます。このようにスムーズに対応することができれば、現場の混乱を防ぐことができるといふことが、わざわざ対策会議を開く時間を省くこともできます。

上司となつて、管轄する仕事や責任の幅が広がったなら、危機管理はより重要となります。甘い見通しではなく、常に最悪のケースを考え、イエローラインを設定しておきましょう。

「上司のルール」より転載)